

<総括>

試験時間 70分

問題形式は、例年通り数理的推論を含む推論中心の問題である。大問数は、昨年度と同じ2題。出題テーマは、大問Ⅰが分配の正義、大問Ⅱが物価指数と為替である。大問Ⅰの課題文は2018年度の慶應義塾大学経済学部の小論文にて使われた文章である。2018年度の問題は河合塾の小論文の完成テキストに収録され、授業でも使った。よって、授業を受けていた河合の生徒は課題文内の単語や内容についてはよく理解できていたと考える。内容は功利主義と合理的経済人仮説に対する再検討である。空欄に語句を補充する設問が含まれているが文章の内容をきちんと理解できれば難しくはない。論理的な思考で最も適切な語句を選択することが重要である。

大問Ⅱは、消費者物価指数と為替について書かれた2つの文章で構成されている。ラスパイレス指数の式を選ぶ問3が多少迷う可能性がある。経済学を知っている者には取り組みやすい問題だが、経済学の基本を知っている受験生は少ないだろう。また、経済学を知らなくても物価指数や為替についての知識は一般常識ともいえる。

難易度的には昨年のモンティ・ホール問題よりも易しい。物価指数の指数とは、数値の変化や大きさを比率として表したものである。物価の変動を表すものが「物価指数」で、ある基準年の物価を100として比較年の物価を相対的に比較した値として算出される。基準年の購入量や取引量等を重みとして算出した価格指数のことを「ラスパイレス指数」という。課題文に書いてあるこの定義が理解できれば式を算出することは簡単である。

為替についても、課題文で「円高とは、円の外通貨に対する相対的価値、言い換えると、円1単位で交換できる他通貨の単位数が相対的に多い状態のことです。逆に、円安とは、円の外通貨に対する相対的価値(円1単位で交換できる他通貨の単位数)が相対的に少ない状態のことです。」と、定義が明確にされているので円高や円安を判断することは容易である。

計算問題は、課題文の内容に沿って計算方法を理解し、計算ミスがないように丁寧に計算することが求められる。昨年度よりもやや易化している。慶應義塾大学商学部の難易度は、年度ごとに大きく異なるので、大学が発表している受験者の平均点などを参考に、年度ごとの難易度を判断してほしい。

計算問題や数理的思考を問う問題をはじめ、暗号など様々なテーマの問題が出題される慶應義塾大学商学部の論文テストであるが、数理的推論という問題形式と学部系統的な出題テーマという傾向は今後も大きくは変わらないと考えられる。

<課題文の分析>

大問番号	I～II
内 容 (主題)	I 分配の正義 II 消費者物価指数と為替
出 典 (作者)	I 亀田達也『モラルの起源—実験社会科学からの問い』、岩波書店、2017年 II 『消費者物価指数のしくみと見方—2020年基準消費者物価指数—』、総務省統計局、2021年 『教えて!にちぎん』、日本銀行
長短・ 難易等 前年比較	長短 (短い・やや短い・ <u>変化なし</u> ・やや長い・長い) 難易 (易化・ <u>やや易化</u> ・変化なし・やや難化・難化)

論文テスト

<大問分析>

大問	出題形式	テーマ・課題文の内容	設問	設問形式	解答字数	コメント（設問内容・論述ポイントなど）
I	課題文	学部系統的	1	その他 (空欄補充)		課題文の空欄に入る適切な語を選択肢から選び、その番号をマークシート解答用紙(1)(2)～(9)(10)解答欄にマークする。
			2	その他 (空欄補充)		課題文の空欄(A)～(C)に入る適切な語句を選択肢から選び、その番号をマークシート解答用紙(11)～(13)解答欄にマークする。
			3	その他 (空欄補充)		課題文の空欄(ア)～(ウ)に当てはまる最も適切な数字をマークシート解答用紙(14)(15)(16)(17)(18)～(24)(25)(26)(27)(28)解答欄にマークする。
			4	その他 (推論)	計4字	課題文の空欄(あ)と(い)に当てはまる最も適切な語句を記入する。
			5	その他 (推論)	15字以内	課題文の下線部(a)について、なぜ後者の選択は功利主義的な考え方に近いと言えるのか。設問の空欄に当てはまる最も適切な語句を解答用紙の所定の欄に記入する。
			6	その他 (推論)	30字以内	課題文の下線部(b)について、なぜ読者である私たちにはアタリマエと思われるのか、設問の空欄に当てはまる最も適切な語句を解答用紙の所定の欄に記入する。
II	課題文	学部系統的	1	その他 (空欄補充)		課題文の空欄に入る適切な語を選択肢から選び、その番号をマークシート解答用紙(29)(30)～(41)(42)解答欄にマークする。
			2	その他 (数値計算)		課題文中の空欄(ア)～(イ)に当てはまる適切な数字をマークシート解答用紙(43)(44)(45)～(46)(47)解答欄にマークする。
			3	その他 (推論)		課題文中の下線部(a)について、選択肢の中から正しく表現する式を選択して、その番号をマークシート解答用紙(48)解答欄にマークする。
			4	その他 (数値計算)		設問の表を使ってラスパイレス式の計算式を使って基準時を100とした場合の物価指数の値をマークシート解答用紙(49)(50)(51)解答欄にマークする。

論文テスト

			5	その他 (数値計算)		問4の表を利用して米国での牛肉の値段が100gあたり3ドルになった場合について、ラスパイレス式の計算式を使って基準時を100とした場合の物価指数の値をマークシート解答用紙(52)(53)(54)解答欄にマークする。
			6	その他 (数値計算)		問4の表を利用して基準時には1ドル=100円であった円・ドル相場が、比較時に1ドル=150円に変化した場合について、ラスパイレス式の計算式を使って基準時を100とした場合の物価指数の値をマークシート解答用紙(55)(56)(57)解答欄にマークする。
			7	その他 (推論)	25字以内	ラスパイレス指数の短所について、設問の空欄に当てはまる最も適切な語句を解答用紙の所定の欄に記入する。

※出題形式は「テーマ・課題文(英文を含む場合は付記する)・図表・その他」

※テーマ・課題文の内容は「一般教養的・学部系統的・教科論述的・その他」

※設問形式は「論述・要約・説明・分析・その他」

<答案作成上のポイント・学習対策等>

大問Ⅰは、分配の正義をあつかった問題である。問1、問2、問3、問4は空欄補充問題である。問1は選択肢が多いので、正しい選択肢を見落とさないように注意が必要である。問3は数値で答えるので、文脈を理解した上で合理的経済人の行動を正しく推論する必要がある。問4は適切な語句を課題文中から抜き出して答える。きちんと文章を読めばできる問題である。問5、問6は推論問題である。問5では下線部(a)の内容が功利主義的な考え方に近い理由を答える。問6はアンフェアな分配案を拒否することがアタリマエと思う理由を答える。

大問Ⅱは、消費者物価指数と為替の問題である。消費者物価指数は、全国の世帯が購入する家計にかかる財及びサービスの価格等を総合した物価の変動を時系列的に測定するものである。家計の消費構造を一定のものに固定し、これに要する費用が物価の変動によって、どう変化するかを指数値で示している。この点を理解していれば問7のラスパイレス指数の短所について推論することが可能であろう。問3のラスパイレス指数の式が正しく選択できないと、問4、問5、問6の計算ができない可能性があるため、問3の式を正しく選択することが大事である。計算自体は非常に簡単である。今回の大問Ⅱは経済学の内容に思い切り寄せてあり、大学の経済学の授業の小テストのような問題であった。経済学の基本的な事項の理解ぐらいは必要なのかもしれない。

学習対策としては、経済学に関する基本的な知識を身につけることと、計算力を磨くことである。過去問を中心にしっかりと備える必要がある。また、過去の出題を踏まえるとアルゴリズムなどの学習も必要となる。河合塾の授業や講習を受講していればこのような特殊な形式の問題にも十分に対応できるだろう。